

令和5年11月1日(水)

魚沼きこえの教室だより

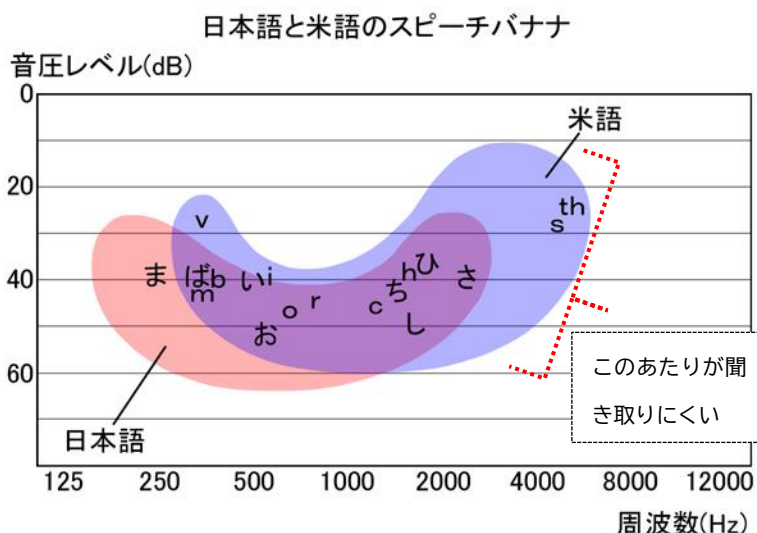
令和5年度 第6号

長岡聾学校小出分教室 (小出特別支援学校内)
きこえの教室 担当: 高橋 登
〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2
TEL:025-792-5462 fax:025-792-5465
mail:takahashi.noboru@nein.ed.jp

補聴器、人工内耳を使って小学校や中学校で学んでいる児童生徒への理解と支援をありがとうございます。今月号では、難聴児童生徒の英語の授業での聞き取りについて説明したいと思います。

英語の授業での聞き取りは？

難聴の児童生徒にとって英語は、補聴器や人工内耳を着けても子音(サの場合、Sが子音でAが母音)の聞き取りは難しい場合が多いです。study や math など、英語は子音のみの発音が多いために聞き取りは難しく、単語の読みさえもままならないことがあります。最近では会話やCDなどでのリスニング中心の授業が多いようですが、難聴の児童生徒には使用する会話文をプリントして事前に渡したり、新出単語にはカタカナをふって知らせたりするなど、視覚的に分かる配慮があるとよいと思います。



難聴の小中学生のほとんどが「英語が苦手です。特にリスニングテストが難しいです」と話します。中学校の英語のリスニング問題は、教室のスピーカーやCDプレーヤーから流れる音声を聞いて全員が一斉に受験する方法で行われます。しかし、難聴児にとっては次のような困難が生じてしまいます。

難聴児が抱える困難の例

- ・話し手の口の動きが見えない音声は、聞き取りが難しい。
- ・周囲のちょっとした雑音で聞き取れないことがある。
- ・音量や音質、スピーカーの位置が聞こえ方に大きく影響する。

補聴器や人工内耳は音声だけでなく、周囲のいろいろな音も増幅します。私たちが気にならないような音でも不快に感じる場合があります。また、片耳難聴の児童生徒も座席の位置によっては聞き取りにくい状況があります。そこで、

～ちょっとした雑音の例～

紙をめくる音、椅子が動く音
鉛筆で書いている時の音
咳払いや鼻をすする音など

これがけっこう
気になるんです。

リスニングテストでは必要に応じて別室での実施や座席の配慮を!

昨年まで通級指導に来ていた中学生の在籍校では、英語のリスニングテストは別室で受ける配慮を行っていました。また、「補聴システム(ロジャー)を使用する」「スピーカーの近くの座席にする」「暖房機器から離れた座席にする」などの配慮の例もあります。各学校にいる難聴児童生徒の実態に応じて配慮をお願いします。

高校入試でも、普段の定期テストなどで行っている配慮と同様の特別な配慮を申請することができます。